

キャリアヒストリー：わたしの場合 No.1 (卒後 20 年目。大学の教育系寄付講座で、学生・研修医・指導医への医療者教育を実践・研究しています)

I わたしの医学教育者としての特徴は？

- * 医学教育の重要性や面白さを伝えるロールモデルとなるよう、医師としても人間としても成長し続けたい、と願う医学教育者。
- * よりよい医療を後世に残すため、よりよい教育で後進や医療者のすべての人を育て、さらにエビデンスを追求し、それに基づいた教育を行いたい。

II わたしが、医学教育者として（／になるために）歩んできたキャリアとライフを、一言で言うと…

- * 周囲に医師のいない環境の中で、家族や学校の先生の刺激や励ましを受けて医師を志した。
 - * 研修医の頃から、指導医の言葉より、自分の医師としての成長は未来の医療のため、という信条を培った。
 - * ベッドサイド教育から医学教育との出会いを経て、学習者としての医学生の成長、さらに指導医の成長を、人間力の観点から見守り支援している。
- ① 大学入学前期 … 両親が教師と養護教諭である家の長女として生を受ける。人口 4000 人程度の町の 1 クラス 30 人弱の小学校に進学。伯母が米国に嫁ぎ、英語しか話せない従兄弟ができて、小学生の頃から海外にも興味があった。小学 6 年生の時の先生が私立の進学校に進むことも提案してくれた。結局、皆と同じ地元の公立中学校に進学したが、自分の知らない選択肢を教えてくれ、可能性を信じてくれた先生には今でも感謝している。大学生の時に祖父が亡くなる。最期は寝たきり状態だったにも関わらず、祖母は亡くなった時に「おじいちゃんが逝ってしまった」と言った。たとえ寝たきりでも祖母には、祖父の命が続いていることが大切だったことに気づいた。
 - ② 研修医期 … 医師としてのキャリアが開始となり学習者として学ぶ。指導医の言葉より、自分の医師としての成長は未来の医療のためという信条を培った。
 - ③ 後期研修医期 … 内科および内分泌専門医研修としての学習者の側面と研修医や学生へのベッドサイドを中心とした後輩指導を行う側面を経験した。学生が選ぶ最優秀病棟医賞を受賞した。
 - ④ 病棟医長期 … 米国 H 大学の PBL ワークショップに参加し、医学教育という言葉に出会う。その後、臨床実習のカリキュラムに PBL を導入し、学生講義を受け持ち、医学教育を現場で実践していた。
 - ⑤ 医療系教育センター期 … 卒後 13 年目に米国 H 大学教育センターに 3 ヶ月間短期留学し、医学教育を学ぶ機会を得る。IPE の導入や国際認証受審などを通して、医学科のカリキュラム改革に関わった。卒後臨床研修センター副部門長として医学科から研修までのシームレスなマネジメントにも関与した。
 - ⑥ 教育系寄付講座期 … X 大学大学院医療者教育学修士課程に進学。医療者教育学を学びながら、医学生の成長について、研究を行う。学内外の医療者教育のチーム形成を行い、チームにおける医療者教育の向上を目指している。

Ⅲ 医学教育者としての、これまでのキャリアとライフの歩み

時期区分	医学教育への関与・ ライフイベント 等	特に取り組んだこと (課題・重点等)	達成・実現できたこと (業績・効果等)	困難さや苦勞したこと (問題・悩み等)	原動力や助けられたこと (動機・契機・環境等)
① 大学入学前 期 (基盤形成)	町の小児科『解体新書』 女性医師、医学部を目指す 医学部に入学	・「田舎の高齢者に大丈夫だよ と言える医師」	・医学部に合格 ・医師を一生の仕事としてやり 遂げることを決意		・海外への興味(従兄弟)、知らない 選択肢や可能性(学校教師)
② 初期研修医 期 (学習者)	卒後1～2年目		・自分の医師としての成長は、 目の前の人のためではなく、未 来の医療のためと認識		・「自分が教えられることは何でも教 える。君たちは我々以上のものを学ば ないと医学の進歩はない」(指導医)
③ 後期研修医 期 (学習者・臨床教育)	卒後3～8年目 ・内科・内分泌専門医研修 ・ベッドサイドでの後輩指導	・ベッドサイド教育 ・学生のニーズや到達度 ・双方向コミュニケーション	・学生が選ぶ最優秀病棟医賞		
④ 病棟医長 期 (臨床教育と医学教育 の融合)	卒後9～11年目 ・米国H大学のPBLワークシ ョップで医学教育を知る	・ベッドサイド教育 ・個々の教育手法 ・臨床実習にPBL導入 ・学生講義、病棟運営	・エビデンスに基づいた医学教 育の知識や手法の習得		・学生との関係性の構築 ・成人教育理論の学びと実践 ・若手医師の指導力 ・教育のロールモデル
⑤ 医療系教育センター 期(カリキュラム改革と マネージメント)	12～22年目 米国H大学教育センター短期 留学 ・低学年授業 ・カリキュラム改革 ・IPE導入、国際認証受審 ・シームレスなマネジメント	・医学教育全般の俯瞰的理解 ・シミュレーションスペシャ リストの育成・セミナー開催 ・医学科全体にPBL導入 ・指導医講習会の運営 ・指導医のモチベーション ・人間力の育成方法と評価	・AMEE2015への参加 —医学教育への関心 人間力の成長 医学教育研究実践 リーダーシップ ・学会認定医学教育専門家資格 の取得	・教員・上級学生にPBLチ ューターやプログラムの有 用性や意義を伝える難しさ ・学生の批判的意見を取り 入れ改善に活かす難しさ ・学生・研修医のキャリア 相談、キャリアの授業	・関係性構築(学生・研修・指導医) ・興味があり、深く学び、学生教育に 取り入れたことが学生のモチベーショ ンや将来のキャリアに繋がると実感 ・指導医が学生の現場でのロールモデ ルになるように指導医の意見を反映 ・メンター、コミュニケーション
⑥ 教育系寄附講座 期 (医療者教育専門家)	卒後23年目～現在 ・医療者教育学修士課程入学 ・医療教育者の教育・学習支 援	・学生、研修医、指導医との 関係性構築 ・医学生の成長(修士課程の 研究テーマを継続)	・医療者教育学修士課程の経験 —深く学び、振り返る機会 ・修士学位の取得	・学生の個性を活かす方法 ・医学教育研究と論文執筆 ・俯瞰的に考えるエビデン スのある医学教育の理解	・同期と勉強会やワークショップ実施 ・医療者教育FD, 医療者教育ジャーナ ルクラブの運営、学内の教育研究相談 ・非公式な教育談話での様々な気づき

IV 抱負

現在は、医学生を対象とした質的研究、行動科学や非認知能力導入の単施設研究を行っている。今後は、多施設研究や他の医療職との共同研究などにより、日本における教育エビデンス作成に関わっていきたい。また、医療人の生涯にわたるアイデンティティ形成についても、実践者や教育担当者として関わり、医療者教育を通し医療現場への還元についても研究を重ねていきたい。

具体的で個性的な未来を語る事が得意でないため、少し遠い未来を言語化できるように視野を広く、多くの方と語り合いたい。

V 次世代や悩めるあなたへのメッセージ

医師になっていることが、すでに、次世代の医師や医療者を育てることに繋がっています。生きている事が、様々な経験をする事が、自分自身の成長に繋がっています。今、悩んでいること自体も、いつか一生懸命、悩んで良かったと感じる日が来ると思います。自分の強みを生かして、弱みを受け入れて、少しずつでも弱みでなくなるように努力する過程が大切なのだと思います。そして、周りにいる人のキラリと光るところを見つけてください。私自身もマインドフルになろうと日々、立ち止まったり、後ずさりしたり、ジャンプしたりしながら、少しでも成長したいとあがいています。皆さんや皆さんの大切な人が、皆さんの医療チームや皆さんの患者さんが、より良い医療を受け、より良い人生を歩まれることを願っています。